



はらじゅくかわら版

新年号

独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者中心の医療を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。



謹賀新年



富士山：当院屋上から撮影

第55号

目次

院長・副院長年頭挨拶	1
地域医療連携	2
泉区メディカルセンター会長挨拶	
特集 一医師が語る疾患一	3
第14回 口腔がんと口腔ケア	
歯科口腔外科部長 根岸 明秀	
連載	
職員リレー紹介 第13回 臨床検査科	4
行事紹介	
戴帽式を終えて	5
第52回楓葉祭「つながる～心と心～」	6
平成28年度 病診連携の集い	7
市民公開講座について	7

お知らせコーナー 8

食堂と病院管理栄養士が協同で

「ハマのヘルシー御膳」を提供しています♪

年男・年女 9

紹介状をお持ちください

外来担当医表／編集後記

発行月：平成29年1月

発行：独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター 広報委員会

発行責任者：平原 史樹

住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2

電話：045-851-2621

FAX：045-851-3902

URL：<http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

院長・副院長年頭挨拶

院長挨拶

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター院長の平原史樹です。新たに平成29年を迎える、改めてご挨拶を申し上げます。東海道53次の五番宿、戸塚の地に築かれた本院は設立後すでに70年を超えた歴史を刻んでおります。古く歴史の中では富士見と名乗った伝統ある当地の地名通り、当院から眺望できる冬の富士山は雄大で心が落ち着きます。

当院では本年も気持ち新たに『私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納

得していただける患者中心の医療を目指します』との病院の基本理念に基づいて皆様を地域の診療施設と力を合わせてお護りし、診療させていただきたく存じます。病気と闘っておられる方々には正月も新年もありません。職員一同、みなさまと手を携えあって診療に取り組むとともに、健康を守るためのご支援をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



院長 平原 史樹

副院長挨拶

当院に着任したのは2001年でしたので17年目になりました。その間たくさんのこと経験しました。副院長 宇治原 誠した。なかでも最も記憶に残っているのは2011年の大震災です。計画停電で原宿地域が街灯や住宅の電灯も消え真っ暗になったとき、当院はたまたま1年前に新築建て替えをしており新しい非常電源設備を備えていたため、燃料の高騰と供給不安はありながらもなんか診療室、病室の電灯を灯すことができましたが、後日、患者さんから「原宿が真っ暗のなかで国立病院の病室が灯っているのを見て、なんだか心強く、安心しました」とおっしゃってくださいましたのが、とてもうれしかったです。

当院が地域の皆様の「安心」でいることができるよう職員とともに今年も今後も努力を続けて参りたいと思います。ご支援をよろしくお願ひします。



副院長挨拶

謹賀新年。
本年度より副院長を務めている鈴木宏昌です。
教育研修および医療安全 副院長 鈴木 宏昌を担当しています。

当院は指導医数の増加、施設内容の充実、新規治療の導入等の効果で、臨床研修病院として医学生に人気が高い病院となりました。新年度からは24名の初期研修医（過去最高人数）がトレーニングに励む予定です。

当院は高度急性期病院です。高度医療の実施には多職種によるチーム医療が必要です。今年は患者さんもチームの一員となり、お互い力を合わせ安全で良い医療を作る「患者参加型医療安全」を推進したいと考えています。ご協力を願いいたします。



病診連携施設紹介

泉区メディカルセンター会長挨拶

新年あけましておめでとうございます。平成23年4月より泉区メディカルセンター第6代会長に就任し、3期6年目を迎えた鈴木です。まずは病診連携でいつもお世話になり、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

私達泉区医師会は泉区住民皆様の保健、医療、福祉、さらに災害対策に寄与するために日夜活動しております。

2011年の東日本大震災の教訓から、震度7の激震が発生した場合災害拠点として行政・医療の拠点が機能を維持しなければなりません。従って翌年から震度7に耐えうる免震・耐震のメディカルセンター建て直しが始まりました。最初は中区から始まり、港南・鶴見・青葉・旭区と続き今年は戸塚区メディカルセンター建て直しが完了し、現在建築中の港北区の後、磯子・瀬谷区と続いて平成31年度中に泉区メディカルセンターも移転建て直しを致します。泉区メディカルセンターは現在立場の地区センター隣りにあり、田圃を埋め立てて造った脆弱性に加え駐車場共有で混雑時には機能が麻痺してしまいます。従って泉区市役所の近くの水道局の後に休日診療所・南西部夜間急病センター・訪問看護ステーション・在宅医療相談室が移転再建し、災害発生時にも行政と連携し易くなるように働きかけております。

病診連携については日々の治療において休日診療所、同一場所に併設されている夜間急病センターで重症患者が来院された場合、区内には三次救急病院がなく、横浜医療センターか聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院に搬送させて頂きいつも感謝しております。

病診連携会議は横浜医療センターで毎年4回開催されており、病一診、診一診、病一病の顔の見える連携に努めさらに行政との連携を重視しその都度問題点を提起し協議しております。

地域保健として住民健診、乳幼児健診、母親教室、各兼新事業、育児相談、成人健康・老人健康診査等に

泉区
メディカルセンター会長
(他には)

鈴木 正比古

福祉事業として訪問看護ステーションを平成8年に開設し、現在に至るまで看護師による訪問看護、居宅支援事業を行っており、さらに2025年問題へ向け在宅医療の充実のため今年1月29日訪問看護ステーション内に在宅医療相談室を開設致しました。横浜医療センターを含めた13カ所（認知症専門のほうゆう病院も参加）の病院と連携し、多職種連携を踏まえながら、在宅医療・介護に力を入れていく方針です。

災害時の72時間以内の初動体制としては開設可能な診療所の確認とトリアージ1の軽症患者の診察への対応として救護隊による巡回に加え、泉区役所内に設置された災害対策本部で中等度患者を診ますが、重症患者は横浜市より広域災害時の医療救護拠点に位置付けられた横浜医療センターへ重症患者の搬送への協力宜しくお願い致します。

これら以外の医師活動としては年に数回開かれる横浜医療センター主催の学術講演会に参加して学問的交流を深めております。また定例研究会として肺がん検査及び胸部レントゲン潜読影を泉区メディカルセンター内で開催しております。福祉厚生として区会員の親睦として2つのクラブが活動し会員の親睦に努めています。

横浜医療センターは現在他区の病院ですが旧戸塚区の泉区にとって最も頼りになる病院として評価しておりますので、今年も区民の健康を守るべく宜しくお願い致します。



特集－医師が語る疾患－

第14回 口腔がんと口腔ケア

歯科口腔外科部長 根岸 明秀



口腔がんってご存知ですか？日本では年間約7,000人が罹患し、12位前後の罹患数・死亡数ですが、世界的には南アジア、東南アジアに多く6-7位の癌です。口腔がんの発症部位は約半数が舌ですが、歯肉・頬粘膜・口腔底など口腔内のあらゆる粘膜に発症します。また、顎下腺や耳下腺などの唾液腺に発生する癌もあります。口腔がんに対する治療は、基本的には手術による切除ですが、放射線や抗癌剤による治療を併用あるいは単独で行われることもあります。口腔は、「呼吸する」「食事を摂る」「話す」、そして「顔貌を形作る」など生命維持・社会生活に必須の機能を有する器官です。口腔がんに対する治療により一命を取り留めた、しかしうまく話せなくなったり、顔が変形したり、など「生物学的生命」は維持できたが「社会的生命」が失われた、というようなことが起こります。このような問題点を最小限にするためには、口腔がん切除後の再建手術、各種治療による口腔有害事象に対する口腔ケア、そしてなによりも重要なことは「早期発見・早期治療」です。早期発見には「口腔がん検診」が有用です。日本口腔外科学会神奈川支部と神奈川県歯科医師会が協同し、各地区歯科医師会単位で無料口腔がん検診を実施しております。今年度から戸塚区、泉区でも開催されております。口腔外科専門医と歯科医師会会員の開業歯科医による診察を行い、口腔粘膜疾患や前癌病変、癌が疑われる受診者に対し、当院のような高次医療機関への受診をお勧めしています。ただ口腔内はご自身でチェックできる部位もあります。舌の側縁、上下顎の歯肉、頬粘膜などに、拭っても除去できない白い斑や紅色斑、ブツブツした肉芽の隆

起、粘膜表面が破壊された潰瘍のような状態が見られたら、かかりつけ歯科にご相談ください。必要に応じ高次医療機関へご紹介いただけます。



左舌白板症



左舌紅板症



左舌癌

白板症・紅板症は前癌病変です。このような状態であったら、早めのご相談をお勧めします。

口腔ケアとは、口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリテーションにより生活の質（Quality of life : QOL）の向上をめざした科学であり技術です。近年、手術や抗がん剤治療などに関連して起こる肺炎や口内炎（口腔粘膜炎）の予防に口腔ケアの有効性が示されつつあります。治療開始前から歯科医師・歯科衛生士による専門的口腔ケアを行い、口腔の環境を整え口腔細菌を制御することにより、口腔細菌に起因する術後肺炎、抗がん剤の影響による免疫力低下から惹起される歯周病などの口腔内感染病変の悪化や副作用の口内炎（口腔粘膜炎）などの口腔トラブルを減少させることができます。問題点として口腔ケアで最善の口腔環境にするためには時間がかかります。病気にかかり、治療することになってから歯科を受診するのではなく、普段からかかりつけ歯科をもち、口腔をよい状態に維持しておくことが重要です。

●連載● 職員リレー紹介

第13回 臨床検査科

臨床検査科 細菌検査室 志村 幸大、安田 秀平

こんにちは、臨床検査科です。患者の皆様は臨床検査科についてご存じでしょうか？当院に来院され診察を受けたら、医師から「血液検査しましょうか」と言われることも多いかと思います。実は、そこからが私たちの臨床検査科の出番です。臨床検査は、患者さんから採取した血液や尿、便、細胞などを調べる「検体検査」と、心電図や脳波など患者さんを直接調べる「生理機能検査」に分けると理解しやすいです。今回は、その中でも検体検査の細菌検査室についてご紹介したいと思います。

さっそくですが、細菌検査室って何をしているところか、皆様ご存知でしょうか？

細菌（＝微生物）と聞くと悪いイメージをもたれるかもしれません。しかし、体内には細菌（常在菌）がたくさん存在します。たとえば、腸内の善玉菌とか聞いたことありませんか？常在菌は普段は病原性を示しません。また、体の決まった場所に存在していて、外部から侵入した病原微生物の増殖を抑えてくれています。

しかし、下痢や発熱などが起こった場合は、細菌が体内に侵入したことが原因となっているかもしれません。どのような細菌が原因となっているか調べるのが細菌検査です。当院では専門的知識と自動検査システムを用いて細菌や真菌を中心に様々な病原微生物の検索を行います。そして、検出された病原微生物にはどのような抗菌薬=お薬（抗生物質）が有効なのかを調べるのが主な業務です。患者さんから採取されたあらゆる検体（血液、尿、喀痰、便、膿など）の病原微生物を特定することで、適切な診断と治療に貢献できるよう努めています。

ニュースなどで薬剤耐性菌（薬が効かない細菌のこと）についての話題を耳にしたことがある方も多いと思います。私たちの役割の一つに薬剤耐性菌の監視があります。不適切な抗菌薬の使用によって抗菌薬が効かなくなってしまう場合があります。これが薬剤耐性菌です。

病院内において、感染をおこさないこと、感染を広げないこと、耐性菌の動向や院内感染に関わる病原菌情報をいち早くキャッチして伝達することが細菌検査室の役割です。さらに、院内感染防止対策委員会やICT（Infection Control Team、インフェクションコントロール チーム）活動へ積極的に参加し、各部門と連携し活動しております（写真1）。私たちは、日常業務はもとより、これら情報をチームとして共有することで、患者さんが安心して入院生活がおくれるよう日々努力しています。



写真1 臨床検査技師も参画したICT（Infection Control Team）活動風景
細かな部分までチェックして衛生環境改善に努めています。



使命感を持って業務に従事しています。

写真左 志村臨床検査技師、写真右 安田臨床検査技師

行 事 紹 介

戴帽式を終えて

横浜医療センター附属横浜看護学校

1年生（54回生）追立 萌

さわやかな秋晴れの中、第54回生戴帽式が行われました。戴帽式とは、看護学生がナースキャップ、またはエンブレムを頂き、「看護師になる」と決意を新たにする儀式です。

入学してから戴帽式までの半年間で、多くのことを学んできました。人体の解剖についての知識や、バイタルサイン測定などの基本的な技術、さらに看護師に必要な倫理観についても学習してきました。

私たちは今まで学んできた看護に対する思いや決意を誓いの言葉とし、当日来てくださった方々の前で全員で齊唱しました。誓いの言葉を決めるにあたり、ひとりひとりが考える看護に対する思いや決意について、学生全員で語り合うことは初めての経験でした。また、その意見を1つにまとめるることは、非常に難しく時間もかかりました。しかし、毎日話し合い、練習することで54回生の気持ちもひとつにまとまっていきました。そして当日は、様々な方からお褒めの言葉をいただき、私たちは看護師になるという自覚がさらに深りました。

戴帽式には、多くの方が出席して下さいました。改めて、いつも多くの方に支えられているということを実感しました。これからも、支えて下さる方々への感謝を忘れず、自分たちの目指す看護師像に向けて努力していきます。

最後に、私たちは1月末に初めての実習を控えています。実習に向けて、技術練習や知識の再確認をしたいと考えています。皆様、どうぞよろしくお願ひ致します。



行 事 紹 介

第52回楓葉祭 「つながる～心と心～」

横浜医療センター附属横浜看護学校
2年生（53回生） 佐藤 結花

第52回楓葉祭では、「つながる～心と心～」をテーマに開催しました。

1日目は、今年初の試みで学生シンポジウムを行いました。6名のシンポジストが、これまでの授業や実習での自身の体験を通して学んだことを全学年に発表しました。シンポジストの緊張が伝わるほど、会場は真剣に発表を聴いていました。2.3年生は看護についての学びを深め、1年生はこれから実習のイメージが掴めたのではないかでしょうか。2日目は、各模擬店に分かれ、楓葉祭の一般公開が行われました。前日はあいにくの雨でしたが、当日は雨にも降られず地域の方々も多く足を運んでくださいり、来場者数は161名となりました。一般公開では模擬店だけでなく、学習展示での骨密度測定、手浴、看護技術体験（沐浴や妊婦体験等）の他に、学生有志の歌やバンドなども企画し実施しました。

楓葉祭は個々が力を発揮し、楓葉祭委員会及び係のリーダーを中心として学生主体で活動していました。そして、リーダーと委員会間で報告・連絡・相談を行い、授業では養えない団結力やリーダーシップを学習できるいい機会となりました。楓葉祭委員をはじめ、自治会や模擬店リーダー、メンバーなど1年生から3年生まで学生全員が一致団結して協力したこと無事に開催できたと私は思います。また、バザー用品、機器など病院の方々のご協力がありバザーや学習展示が充実した内容となりました。他にも、同窓会の方々の参加もあり、テーマにあるようにさまざまな方々と心と心がつながる機会となつたと感じました。

私は、今年から楓葉祭委員会に加入し、副委員長という立場で全体をみると心がけていましたが、至らない点が多くありました。しかし、周りに支えられてここまで頑張ることができました。楓葉祭を通して学んだことや、人とのつながりの大切さを今後の私の看護につなげていきたいと思いました。ご来場いただいた皆様ありがとうございました。



行 事 紹 介

平成28年度 病診連携の集い

地域中核連携室長 末永 邦仁

横浜医療センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療支援病院として、地域の医療機関との密接な連携による地域完結型医療を目指しています。

このたび、地域の医療機関の先生方と、より緊密な連携体制を構築することを目的として毎年開催しております「病診連携の集い」について、横浜医療センター附属横浜看護学校を会場として、平成28年11月24日に開催しました。

当日は、11月としては54年ぶりに初雪が降るなど、あいにくの空模様ではありましたが、当院の登録医の先生方など昨年を上回る105名もの多数のご参加をいただき、当院と地域の先生方との繋がりの深さを改めて確認しました。

今回の病診連携の集いでは、今年度、診療体制を強化した「呼吸器外科」の渡部部長から、肺がんの治療についての知見をご紹介したほか、行政から、横浜市医療局田中副局長をお迎えし、この10月に策定された「地域医療構想」についての情報提供をいただきました。また、各診療科の医師から、それぞれの診療科の特徴等についてご紹介し、当院の診療機能についても、情報共有が図られました。

(なお、登録医の一覧は、横浜医療センターのホームページに掲載しています。)



○●市民公開講座について●○

横浜医療センターでは、地域の皆様を対象とした無料の医療講座を開催しています。

次回の講座は、「胆のうがん、胆管がんについて」をテーマとして、胆石を放置すると癌になるのか、印刷事業所で発生した胆管がん等について分かりやすくお話しします。

日 時 平成29年3月7日（火）15：00～16：30

会 場 戸塚区総合庁舎3階多目的スペース（大）

（横浜市戸塚区戸塚町16-17 JR・市営地下鉄戸塚駅直結）

講 師 横浜医療センター 関戸 仁 統括診療部長

●平成29年2月13日（月）から受講の受付を開始いたしますので、受講をご希望の方は、お電話で、当院がん相談支援センター 045-853-8357にお申し込みください。（先着180名様限定）

どなたでもご参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。



お知らせコーナー

食堂と病院管理栄養士が協同で 「ハマのヘルシー御膳」を提供しています♪

病院食は「薄味で美味しい」とのイメージを多くの方が持たれていると思いますが、近年、国立循環器病研究センターの「かるしお」などのレシピ本が盛況を集めています、「病院食はまずい」というイメージから、「健康食」として一般に広がりつつあります。これには、健康志向や、生活習慣病予防など、食生活の見直しへの関心が高まっていることが考えられます。こうしたニーズに対し、多くの企業が「健康」「ヘルシー」をコンセプトとした商品の開発を進め、様々な健康食品や、レシピ集などが販売されるようになりました。病院でも、病院機能に特化した「減塩食」などのレシピ本が発売され、健康の増進や疾病の重症化予防に貢献する取り組みが増えました。

こうした背景と、患者の皆様やそのご家族などのサービス向上の一環として、「減塩と低エネルギー」をコンセプトに、平成28年1月より「ハマのヘルシー御膳」を開始しました。栄養量や献立のポイントなどを盛り込んだレシピ付で650円です。

これまで、「豚丼」、「豆腐黒酢炒め」、「サラダ冷麺」、「冷やし中華」、「冷しゃぶ麺」、「鮭フライ」を提供しています。鮭フライは、「減塩と低エネルギー」とともに、「カルシウム」もテーマとし、カルシウムの吸収に関わる「ビタミンD」にも配慮したメニューです。

お召し上がりになった方のアンケートでは、「満足」と回答された方が82%と、非常に好評で、リピーターも増えてきました。

ハマのヘルシー御膳を、ぜひ、ご賞味下さい♪

1日推奨量の半分のカルシウムがとれる♪

秋鮭フライ御膳

ぜ旬メビのたひのニタ吸んこ秋ユミ収ばの鮭1枚をく機をでD促質す。が進や、豊するカルシウムに摂れる
カルシウムだけじゃない!!

材料（人分）

鮭フライ 生鮭···80g（1切れ）
白コショウ···少々
小麦粉/鶏卵/パン粉/粉チーズ
レモン果汁

小松菜浸し 小松菜···50g
さくらえび···6g
顆粒だし/砂糖···少々
醤油···小さじ1/2

つくりかた

鮭にコショウをふり、小麦粉、溶き卵、粉チーズをませたパン粉をつけて揚げる。

小松菜は食べやすい大きさに切り、さくらえび、だし、醤油、砂糖を入れて煮る。

1食あたりの栄養成分

熱量	656kcal
たんぱく質	32g
脂質	19g
塩分	2.8g
(味噌汁無し)	1.4g
カルシウム	304mg

管理栄養士アドバイス

- 小松菜とさくらえびにはカルシウムが、鮭にはビタミンDが豊富に含まれています。
- 生鮭を使用することで余分な塩分を控えられます。
- フライはレモンで召し上がることで減塩になります。

年男・年女



循環器科部長
網代 洋一

ついに人生4回目の年男！を迎えます（笑）。この4月からは横浜医療センターでの勤務も8年目になります。2009年当初は6人だった循環器内科は9人に増員となり、森部長が就任されてアブレーションも軌道に乗り、質実ともに飛躍的な発展を遂げました。私自身は、いくつかの専門外来などを担当しつつ、一方で、機会があつて2012年より国立病院機構としての臨床研究に携わるようになりました。その研究も今年で大詰めを迎えます。何らかの重要な知見を、日本そして世界の医療に提供できるように頑張りたいと思います。



契約係長
柳澤 純一

昨年の4月より、まつもと医療センターから配置換えで着任致しました。私自身、横浜医療センターは4施設目の病院で、平成13年に相模原病院へ採用されてから今年で16年目を迎えることになります。そこで、今回の広報誌寄稿を機に16年前の出来事を調べたところ、小泉内閣の発足、東京ディズニーシー、USJ開園及び9.11テロ等がありました。その頃の病院はまだ国立病院で、年度ごとに国(特別会計)予算の範囲内で運営を行っていましたが、ご存知の通り、平成16年4月より独立行政法人へと移行し、現在は独立採算制が求められ、毎年度、年度計画を立て、運営を行うことになっております。私の今の仕事は契約という業務で、業務委託や医療機器等の契約に関わる仕事を行っております。業務上、どうしてもコスト削減が求められ、皆様へも厳しいことを求めることがあるかと思いますが、今年度以降も引き続き、横浜医療センターがより良い病院となるよう更に務めてまいりたいと思います。



理学療法士
安藤 奈由

今年の4月で横浜医療センターに就職して5年目を迎えます。入職しリハビリテーション科で理学療法士としての仕事を始めてからは、先輩方や患者さんから日々多くのことを学ばせていただいています。それと同時に、プライベートでは結婚、妊娠、出産という事があり、あっという間に時間が経ったように感じています。妊娠中もそうでしたが、育児休業からあけて復帰してからは、職場の先輩方の理解と協力のお陰で、安心して仕事をする事ができています。理学療法士の仕事は院内でも他職種の方々との関わりが沢山あり、患者さんとも密に接する仕事だと思うので、母となった経験を活かしてこれからも業務に取り組んでいきたいと思っております。



西6病棟CCU看護師
金井 久人

2017年、私は看護師として5年目という節目の年を迎えます。これまで西6病棟、CCUにおいて循環器科ナースとして多くの経験をさせて頂きました。病棟には慢性期の心不全で入退院を繰り返されているご高齢の方や、突然の胸の痛みから入院される若い方まで多くの患者さんがいらっしゃいます。個人的な背景は様々ですが、心臓の疾患を抱えている方は命の危険への不安を抱えている方も多く、またそのご家族も同じような不安を抱えていることがあります。

5年前、一番身近にいる医療者として少しでも力になりたいと看護師を志望しましたが、これからも初心を忘れることなく患者さんに寄り添っていけたらと改めて強く感じています。また、職場ではたくさんの後輩もできましたが、自身の看護観を大切にした関わりができるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。



西5病棟 看護師
荒原 美緒

西5病棟看護師の荒原美緒です。私が働いている西5病棟は神経内科・腎臓内科・糖尿病内分泌内科・眼科・皮膚科の患者さんが入院されています。今年の4月で働き始めてから2年が経過します。現在は糖尿病内分泌内科で教育入院されている患者さんを対象に、糖尿病教室を開けるよう先輩に教えていただきながら勉強しているところです。糖尿病の知識・自宅での食生活・症状への対処の方法など、患者さん一人一人にあった知識や方法と一緒に考えていくような教室を開けるようになるのが今年の目標です。その他にもたくさんの患者さんが入院されています。患者さん・家族に信頼される看護師になれるように1年間頑張ります。

＜重要なお知らせ＞ 紹介状をお持ちください！

初診時に、「かかりつけ医（地域の病院・診療所）」より紹介状をお持ちいただくと、現在までの病状、お薬の内容など経過措置がわかり、無駄な時間を省き、治療を早く始めることができるというメリットがあります。さらに、当院の診療内容をかかりつけ医に報告いたしますので、当院での診療が終わったあとも、かかりつけ医と当院の担当医が連携して患者さんの病状に応じた治療に当たることができます。

当院では、平成28年4月1日より継続的な治療のための次回予約が無い場合、または、予約日に来院できず1ヶ月が経過してしまった方は、選定療養費として医療費とは別に下記金額をご負担いただくことになります。

何卒ご理解いただくようよろしくお願い申し上げます。

選定療養費

初診時 5,400円（税込）

選定療養費をご負担いただくのは、次のような場合になります。

なお、健康診断や検診の結果（要再検査、要精密検査・要治療）をお持ちの方は紹介状をお持ち頂いた方として扱いますので、選定療養費は負担いただけません。

- ①初めて当院を受診された方のうち、紹介状をお持ちでない方
- ②当院の受診歴はあるが、前回の受診時に医師から再診の予約指示がなかった方
- ③予約日に来院できず、予約日から1ヶ月が経過してしまった方
- ④前回の病気が治癒された方で、新たに同じ診療科で受診される場合や別の科に初めて受診される場合

選定療養費の目的

選定療養費は、国の方針で『病院と診療所との機能分担と医療連携』を目的として制定されているものです。初期治療は地域の医療機関で行い、高度・専門医療は200床以上の病院で行うことを推進しています。



独立行政法人
国立病院機構 横浜医療センター 外来診療担当医表

平成28年12月1日～

診療科・曜日		月	火	水	木	金	備考
外来受付 A	小児科	鈴木 陽一	福山 純子	小林 慶典	鈴木 陽一	塙谷 裕美	
	二村 真琴	鈴木 健	斎藤 祐子	矢竹 曜子	宮澤 啓貴		
	坪田 伶那	松本 駿	大場 美央	尾高 真生	五十嵐 製鈴		
	心臓血管外科	益子原 幸宏	休診日(手術日)	○交代医師		西本 隆亨	○:予約外の診察には紹介状が必要
	形成外科	村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃		
	整形外科	瀬上 秀威	白塔 寛昇	瀬上 秀威	白塔 寛昇	佐藤 雅経	
外来受付 B	小林 明裕	伊藤 りえ	伊藤 りえ	佐藤 雅経	小林 明裕		
	川村 正樹	日野 勝利	川村 正樹	渡部 優太郎	渡部 優太郎	★日塔 寛喜	
	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	
	糖尿病内分泌内科	重松 紫理奈	重松 紫理奈	堤 優	原 伸史		●:水曜日はFAX紹介患者及び予約患者のみ、木曜日は予約患者のみ
	小松 裕美子	●宇治原 誠	●宇治原 誠	小松 裕美子			
	神経内科	中澤 謙介	小林 紘礼奈	上木 英人	川端 雄一	小島 麻里	
外来受付 C	腎臓内科	高橋 寛哉	高橋 寛哉	廣田 憲悟	松下 啓	休診日	
	呼吸器内科	後藤 秀人	後藤 秀人	池田 秀平	休診日(検査日)	増本 菜美	
	■樋原 基史	■樋原 基史	■樋原 基史	■樋原 基史	■樋原 基史		
	消化器内科	宮澤 忠郎(初診)	交代医師(初診)	小松 達司(初診)	松島 昭三(初診)	交代医師(初診)	
	交代医師	鈴木 大輔	松島 昭三	野登 はるか	小松 達司		
	■小松 達司	■小松 達司	■小松 達司	■小松 達司	■小松 達司	森川 昭三	
外来受付 D	循環器内科	岩出 和徳(初診)	岩出 和徳(初診)	岩出 和徳(初診)	岩出 和徳(初診)	長谷川 晴	
	森 文章	岩出 和徳	溝淵 景子	■塙本 実	岩出 和徳		
	■網代 洋一	網代 洋一(午前)	■井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳		
	リウマチ科	井畑 淳	※渡邊 俊幸	★井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳	※火曜日は予約患者のみ(新患受付無し) ★水曜日は地域連携室を通しての完全予約制
	外科・消化器外科	清水 哲也	閻戸 仁	松田 悟郎	閻戸 仁	休診日(手術日)	
	呼吸器外科	渡部 顯一	松田 悟郎	山本 慎史	松田 悟郎	(手術日)	
専門外来～予約制	脳神経外科	久保 順一	武田 和永	徳久 元彦	清水 哲也		
	小川 賢一	※太田 郁子	五味 厚生		透部 克也	透部 克也	
	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	交代医師	初診には紹介状が必要
	眼科	木村 正彦	内匠 秀尚	木村 正彦	木村 正彦	手術日	金曜日は新患のみ診察
	泌尿器科	森 直平	森 直平	森 直平	森 直平		
	皮膚科	白井 京美	上田 喬士	白井 京美	上田 喬士	上田 喬士	初診には紹介状が必要 火曜日は新患のみ診察
婦人科	精神科	小川 由佳	代医師	古野 拓	木谷 卓矢	土屋 美江	
	婦人科	堀尾 桂一	奥田 義加	奥田 義志	堀井 輝彦	高野 哲三	初診には紹介状が必要。
	産科	永井 麻一	高山 駒子	平原 裕也	岩田 亜季子	森 直平	木曜日は予約患者のみ診察。
	歯科口腔外科	妊婦健診(交代医師)	妊婦健診(交代医師)	妊婦健診(交代医師)	妊婦健診(交代医師)	木本 博	木曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています。
	小児科	根岸 明秀(再診のみ)	柴崎 明秀(再診のみ)	根岸 明秀(再診のみ)	根岸 明秀(再診のみ)	土屋 美江	※末・金・火曜日の場合は午後90分までに受付を終めてください。(医師交代、1日1名の予約制)
	感染症内科	アレルギー検査(③)	アレルギー検査(④)	アレルギー検査(塙谷 梢美)	アレルギー検査(宮沢 啓貴)	アレルギー検査(宮沢 啓貴)	③第2・第3・第4週 ④:第1・3・5週(火)長瀬 晶子 ・骨髄外來 第5週(火)五十嵐 製鈴 ・フォローアップ外来 第4週(火)二村 真琴 ⑤:第2・4週(火)渡辺 好宏
専門外来～予約制	小児科	シナジス(9～4月)	フォローアップ外来(矢竹 曜子)	1ヶ月健診(交代医師)	1ヶ月健診(矢竹 曜子)	循環器外来(鈴木 健)	③第2・第3・第4週 ④:第1・3・5週(火)長瀬 晶子 ・骨髄外來 第5週(火)五十嵐 製鈴 ・フォローアップ外来 第4週(火)二村 真琴 ⑤:第2・4週(火)渡辺 好宏
	整形外科	感染免疫・アレルギー(小林 基島)	予防接種(交代制)13:30～14:30	1ヶ月健診(矢竹 曜子)	循環器外来(鈴木 健)	アレルギー(7)(塙谷 梢美)	⑥:第4週(月)内分泌 大杉 康司 第1・3週(月)内分泌 斎藤 祐
	神経内科	内分認(⑤)(大杉 康司)	循環器外来(鈴木 健)	1ヶ月健診(月1回)	循環器外来(鈴木 健)	アレルギー(7)(塙谷 梢美)	⑦第2週のみ
	糖尿病内分泌内科	糖尿病遠隔バスト外来			物忘れ外来	地域連携室を通して完全予約制	
	腎臓内科	○頭痛外来				地元連携室を通して完全予約制	
	感染症内科	怪我・嚥下外来				初診・火・水曜日 8:00～11:00。要紹介状/診療情報提供書。 初診時、問診票から連絡の上、随時受付。要紹介状/診療情報提供書 毎週・完全予約制。 再診直後はお断りしています。	
専門外来～予約制	看護部						
	外科	スキンケア外来	スキンケア外来			※乳がん検診、乳腺外科は完全予約制	
	心臓血管外科	血管外来(飯島 正樹)			大動脈瘤・ステントグラフト外来(西本 隆亨)		
	耳鼻咽喉科			補聴器外来(午後)	物忘れ外来	初診には紹介状が必要。精神科外来を通して完全予約制	
	循環器科			ペースメーカー外来(網代 洋一)	発熱時無呼吸症候群外来(網代 洋一)		
	精神科	物忘れ外来			物忘れ外来	初診には紹介状が必要。精神科外来を通して完全予約制	
産婦人科	助産師外来	助産師外来	助産師外来	助産師外来	助産師外来	△:午後のみ。夫立金教室は第2、4週土曜日、第3週日曜日。	
	母乳外来(午後)	母乳外来(午後)	母乳外来(午後)	母乳外来(午後)	母乳外来(午後)	地域連携室を通して完全予約制(第1火曜日のみ)	
	▽母親教室		▽母親教室			9:00～11:00 地域連携室を通して完全予約制	
	呼吸器内科	アスペクト外来(樋原 基史)					
	放射線科	杉山 正人	杉山 正人	帽多 政治	杉山 正人		
	病理診断科	※	※	※	※	※相当医:新野 史 完全予約制(1～2名)、診療日は連続的	

初診受付: 平日 8:30～10:00

再診(予約外)受付: 平日 8:30～10:00

休診日: 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日

地域医療連携室(TEL 045-853-2331)

お知らせ 色つき部分が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

※急患は隨時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)

※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。

※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)

TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)

FAX 045-853-8356

◆編集後記◆

院長挨拶でも富士山を取り上げておりますが、今回表紙用として当院屋上より富士山を撮影しました。富士山は言わざと知れた日本のシンボルであります。

当院は横浜市南西部地域の中核病院として、地域の皆さまの心の拠り所、地域のシンボルとなるように頑張っていきたいと思います。(K・S)